

コロナコロナに明け暮れた令和2(2020)年の前半ですが、我が国の人口当たりの死亡者・感染者は欧米に比しごく少数に留まり、新規感染者数は落ち着きをみせています。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、その理由はまだ不明ですが、国内外で小児における患者発生数は少なく、重症化例も少なくなっています。しかし、一斉休校に伴う教育面の問題のほか、小児の心身への影響、学校・幼稚園での生活、保育のあり方など、新たな問題が国内外で生じています。一般臨床においても、乳幼児健診や予防接種の遅れの取り戻し、一般診療のあり方の見直しなど、早急に解決すべき課題もあります。

最近の話題として、欧米ではCOVID-19流行に伴い川崎病様の病態が増加していることが報告されています。WHOや米国CDCは、これをMultisystem Inflammatory Syndrome in Children (MIS-C)と呼ぶようにしています。目下のところ、国内で川崎病が増加している状況はないと日本川崎病学会等が発表していますが、臨床症状・年齢分布からすると、日本でみている川崎病とは異なるものを彼らはみているのではないかとというのが筆者の印象です。そのような中、偶然ですが本号では「川崎病一病因究明・診断・管理の進歩」として川崎病の特集を組んでおり、いまいちど川崎病を見直してみる良い機会ではないかと思えます。なお、2017年の川崎病の患者数15,164名、2018年の17,364名は、2020年6月

上旬における国内のCOVID-19の届け出感染者数とはほぼ同数になります。ただし、かつて致死率は1~2%ありましたが、2017~2018年の死亡例は6名であり、川崎病における急性期治療・経過観察の進歩が明らかとなっています。

「診療」では、食物アレルギー患者への日常生活の注意事項として重要な「ひやりはっと例」、「アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法」、生命を脅かす疾患をもつ子ども達とその家族を支えるための国内における「小児の緩和ケア」の動向、採血・血管確保・ワクチン接種時など子どもの医療に必要な行為のなかで生じる苦痛緩和の工夫など、小児診療にとって興味深く、必要な事柄について述べていただいた論文が掲載されています。また、適切な治療が行われた結果生じたと思われる「心不全を合併した小児重症アトピー性皮膚炎」、小児では極めてまれな「骨化性筋炎」、「高度徐脈に対してドブタミンが有効であった百日咳乳児例」(そもそもこのような治療の工夫が必要なくなる日が来ることを祈っていますが)など、貴重な症例報告をいただいています。日本医科大学小児科学教室による今回の外国文献紹介は、免疫分野の最新情報となっています。

新型コロナばかりが病気ではないと雰囲気を変えて、どうぞ本誌をお楽しみください。

(岡部 信彦)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第61巻 第7号 6月号

2020年6月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金

定価（本体42,100円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。